



知っておきたい病気・医療

「脳卒中」

若い世代もかかる？ 脳卒中の前触れを見逃さないで
～30代・40代でかかると、その後の生活に影響が～



「ある日、突然」に 若くてもかかる脳卒中

「脳卒中」にかかると、たとえ命が助かって後遺症が残る可能性があります。重要なのは「ある日、突然」表れた症状を見逃さず、一刻も早く治療することです。脳卒中について医療法人財団順和会山王病院・山王メディカルセンター脳血管センター長の内山真一郎先生に伺いました。



Adviser

医療法人財団順和会山王病院・
山王メディカルセンター脳血管センター長

内山真一郎 さん

1974年北海道大学医学部卒業。1981年にアメリカのメイヨークリニックに留学。2001年東京女子医科大学神経内科教授。2008年東京女子医科大学神経内科主任教授。2011年東京女子医科大学脳神経センター所長。2014年から現職。日本脳卒中学会会長、日本脳ドック学会理事などを歴任。

脳卒中とはどんな病気？

「脳卒中」とは、何らかの原因によって脳の血管が傷害され、脳の機能が低下する病気の総称です。

高齢者や男性に多い病気と思われがちですが、若い世代や女性の罹患者も増えています。脳梗塞を発症すると、退院時に介助を必要とする人が約3割、まったく障害が残らない人は約2割とも言われ（参考：日本医療機能評価機構）、たとえ命が助かって後遺症によって生活が一変してしまうことが少なくありません。

脳卒中は大きく次の3種類に分類されます。

① **脳梗塞** 脳の血管が詰まって組織が壊死するもの。脳卒中のうち、約4分の3は脳梗塞が占めています。脳梗塞はさらに以下の3つのタイプに分けられます。

(1) **アテローム血栓性脳梗塞** 動脈硬化により頸動脈や脳内の主幹動脈などの太い血管が詰まるタイプ。

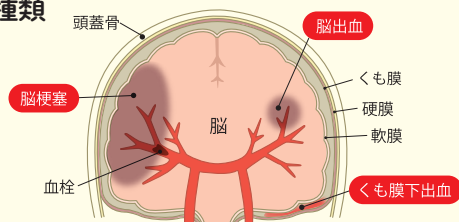
(2) **ラクナ梗塞** 脳内の細い血管が詰まるタイプ。あまり大きな発作にはならず、手足の麻痺やしびれなどが起こることが多い。

(3) **心原性脳塞栓症** しんげんせいのおそくせんしょう 心臓にできた血栓が脳に流れて大きな血管を詰まらせるタイプ。重症になりやすい。

② **脳出血** けっしゅ 脳の血管が破れて出血し、そこでできた血腫が脳組織を圧迫して破壊し、脳機能に障害が出るもの。

③ **くも膜下出血** どうまくりゅう 脳の太い血管に動脈瘤と呼ばれる膨らみができて、それが破裂して、くも膜と軟膜の間に出血するもの。

■脳卒中の種類



若い世代に見られる脳卒中の原因とは

脳卒中を発症する若い年代が増えている背景として、危険因子となる生活習慣病が増え、動脈硬化そのものが若年化していることが考えられます。全体では減ってきている喫煙率も、若い年代の女性では増えていることも問題です。

一方で、若い年代の脳卒中には、高齢者とは異なる特殊な原因もあります。

① 脳動脈解離

脳の動脈は外膜・中膜・内膜の3層構造となっており、それぞれの膜の間に裂け目ができることがあります。そこに血液が入り込むと、血管の内腔が狭くなって脳梗塞を起こします。

② モヤモヤ病

脳の血管が狭くなって詰まるのを補うためにバイパスの血管ができ、画像を撮るとモヤモヤした状態の血管が見られる原因不明の病気です。この血管はもともと血流も悪く脆いので、脳梗塞も脳出血も起こしやすくなります。患者数のピークは10代と30～40代にあり、過呼吸で酸素欠乏になると脳の血管が収縮し、脳卒中症状が誘発されます。

③ 片頭痛

片頭痛は脳の血管がけいれんすることで起こります。日本人の約3割は片頭痛持ちといわれ、通常は一過性の頭痛で済みますが、けいれんが強かったり長く続いたりすると、血管が詰まって脳梗塞になることがあります。

④ 卵円孔開存

胎児のときは心臓の右心房と左心房の間にある壁に孔が開いており、通常は生後に塞がります。ところが、大人になっても閉じないまま開いている人が2～3割います。通常の生活に支障はありませんが、足の静脈に血栓（深部静脈血栓症）ができていたり、例えば激しい咳やくしゃみをした時、トイレでいきんだ時など急に力を入れた時に、脳梗塞を起こすことがあります。

⑤ 薬物

経口避妊薬（OC：Oral Contraceptives）や閉経期のホルモン補充療法（HRT：Hormone

Replacement Therapy）でも、ホルモンが代謝系に影響を及ぼして血液を固まりやすくするため、脳梗塞のリスクが上がります。

「FAST」で脳卒中を早期発見、対策を

脳卒中を発症すると、脳の場所によって手足の麻痺や言語障害などの症状が出る事が多く、米国脳卒中協会はこれらの特徴的な症状の頭文字を「FAST」という略語にして早期受診を啓発しており、日本でも啓発運動が展開されています。

■ 脳梗塞の症状を「FAST」でチェック

Face（顔）	顔の半分が動かなくなって、口元が下がってくる
Arm（腕）	片方の腕（足）が上がらない、力が入らない
Speech（話し）	ろれつが回らない、言葉が出ない
Time（時間）	3つのうち一つでもあてはまれば、すぐに救急車を呼ぶ

この他に、一過性黒内障といって片方の目だけが急に見えなくなったり、半盲といって視野の半分だけ見えなくなることもあります。半盲の場合、両目で見ても片目で見ても同じように視野が欠けて見えます。

脳梗塞の約3割にTIA（Transient Ischemic Attack：一過性脳虚血発作）と呼ばれる前兆発作があります。TIAとは脳卒中の症状が一時的に起こって、長くても24時間以内（多くは数分から数十分以内）に消失するものです。そのため「ちょっと体調が悪かったのだろう」と放置されがちですが、その後本格的な脳卒中発作が起こる可能性が高いことが分かっています。

脳卒中は時間との勝負です。時間の経過とともに脳の細胞が死んで、後遺症をもたらすようになり、命に関わるリスクが高くなります。突然、いつもと違う症状が表れたら、一刻も早く専門の医療機関を受診することが重要です。

脳卒中の危険因子には、高血圧、糖尿病、喫煙、メタボリックシンドロームなどが挙げられます。生活全体を見直して、危険因子を減らしていくよう努めましょう。適度な運動を継続し、定期的な検診で健康状態を把握することも大切です。

